

4：漢方薬から

メタボリックシンドロームの予防における養生法と漢方薬の利用

柴原 直利

富山大学和漢医薬学総合研究所漢方診断学部門

最近、頻繁に「生活習慣病」という言葉を見聞きする。糖尿病や高血圧、高脂血症、あるいは癌などは、遺伝的素因や環境の要因に食事や飲酒、喫煙、運動、睡眠といった生活習慣の乱れが重なり合っ
て発症することが明らかとなり、これら疾患の総称として「生活習慣病」という言葉が用いられている。その中の一つである「メタボリックシンドローム」は、内臓脂肪の蓄積によりインスリン抵抗性が起こり、糖・脂質代謝異常、高血圧などの動脈硬化危険因子が集積している状態である。メタボリックシンドロームでは危険因子が重複して存在することにより動脈硬化性疾患の発症が相乗的に増加することから、その発症、あるいは進展予防が世界的に注目されている。

「漢方」という言葉もよく聞かれる言葉である。一般には「漢方」＝「漢方薬による治療」と考えられがちであるが、本来、漢方薬は健康を維持するための一つ的手段に過ぎず、古来より漢方医学では食事や生活環境を正す事（養生）も重要な治療と考えられてきた。そこで本講演では、メタボリックシンドロームを予防するために必要な漢方医学的概念や、どのような漢方薬がメタボリックシンドロームの発生、あるいは進展予防に用いられるかなどを中心に解説する。